

第28代 第5航空群司令 濱野海将補着任



発行：沖縄二火会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新栄印刷



『着任のご挨拶』

第5航空群司令
海将補 濱野 寛美

第5航空群広報誌「でいご」をご覧の皆様、いつも第5航空群へのご声援ありがとうございます。

令和8年3月23日付で第28代第5航空群司令を拝命し、統合幕僚監部 運用部 運用第3課長(市ヶ谷)から着任しました濱野です。

沖縄での勤務は3回目となり、慣れ親しんだ沖縄でまた勤務できる事に喜びを感じるとともに沖縄へのご縁を感じております。

また、平素より、広報誌「でいご」を発行していただいている「沖縄二火会」をはじめ、各自衛隊協力団体の皆様及び地域の皆様からの我々の任務に対するご理解及び各種活動や行事等に対する、格別のご支援とご協力に対し、改めて第5航空群を代表して厚く御礼申し上げます。

我々の先輩方が築き上げた那覇航空基地も前身の臨時沖縄航空派遣隊から数えて、今年で54周年を迎えました。

これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物だと感謝しております。

さて、戦後最も厳しく複雑と言われる我が国周辺の安全保障環境、そしてウクライナやパレスチナ更にはイランを取り巻く

中東情勢に象徴されるような予測困難な国際情勢の中、第5航空群は海上防衛の任務を担う第一線部隊として、昼夜問わず警戒監視といった任務や、各種訓練に励んでいます。

このような情勢の中、第5航空群は、今年の3月に新たにP-1型哨戒機の運用を開始し、より一層の任務遂行能力の向上を図りました。これは、沖縄をはじめ我が国の安全保障に関して極めて大きな意味を持つ転換点となります。

また、我々は「地域とともにある部隊」として地元・周辺自治隊との相互支援、連携強化に努めつつ、皆様の安全・安心を護るために、精強かつ活気に溢れ、国民の皆様から信頼される部隊を目指し、一丸となって努力して参ります。

最後になりますが、我々の取り組みは、沖縄県民の皆様のご理解とご支援があつて初めて成り立つものです。

今後とも、引き続き変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。着任のご挨拶とさせていただきます。

第5航空群創立 54 周年記念行事



5空群司令式辞

令和8年4月19日に「第5航空群創立54周年記念行事」が行われました。

記念式典は、国旗・自衛艦旗に対しての敬礼から始まり、陸上自衛隊第15音楽隊及び航空自衛隊南西航空音楽隊が混成編成で国歌「君が代」を吹奏する厳かな雰囲気の中で進行されました。

第5航空群司令(海将補濱野寛美)が式辞の中で、来賓をはじめとするご来場の方々に對し、第5航空群に對する日頃からの支援と協力に感謝の言葉をともに、現在の世界情勢や我が国を取り巻く安全保障環境等について述べられました。

また、隊員に對しては、「諸官らは昼夜分かたず、我が国周辺海域の警戒監視と日々の練成訓練に努めており、司令部、航空隊、整備補給隊、航空基地隊、いずれが欠けても、任務は成り立たない。このように、防衛力の中核とは、諸官一人一人であり、その優れた術科技能、たゆまぬ努力、そして尽きることをない献身の積み重ねこそが、第5航空群の実力であり、我が国

の抑止力そのものである。P-1型哨戒機と従来の翼であるP-3C、この両翼をもって、国防の最前線に立つ部隊としての威容を引き続き示して貰いたい。」と訓示されました。

記念式典のあとに行われた記念行事では、合同編成による音楽隊の記念演奏にはじまり、第5航空群エイサー隊の演奏が行われました。

記念演奏では、「軍艦行進曲」、「海の声」、「スタンドアローン」が演奏され、アンコールでは、「宇宙戦艦ヤマト」を音楽隊の演奏をバックに広報室の今村曹長が歌唱し、陸・海・空自衛隊の共演に会場が盛り上がりしました。

エイサー演奏では音楽隊が奏でる「ダイナミック琉球」に合わせ、5空群有志隊員による創作エイサー演奏がありました。また、その後の「仲順流れ」、「花のカジマヤ」、「唐船ドリー」では、第5航空群隊員が弾く三線に合わせ、第5航空群司令はじめ各隊司令がエイサー演奏に参加、指揮官と若い隊員とが一緒になって演奏している姿には、第5航空群の団結力及び士気の高さを感じました。

最後の「唐船ドリー」では、来場された方も一緒に「カチャシーシー」(沖縄の祝いの舞)を踊り、記念行事会場が一体となって記念行事は終了しました。

また、今回の記念行事は新しく配備されたP-1型哨戒機の披露も兼ねており、多くの方が見学され隊員からの説明を受けていました。



陸自15音と空自南西音の混成編成による記念演奏(1)



5空群隊員有志による演奏



記念式典



陸自15音と空自南西音の混成編成による記念演奏(2)



5空群司令も熱演



国旗・自衛艦旗に對しての敬礼



P-1、P-3C哨戒機見学



沖縄の子供達に雪と南極の氷をプレゼント



令和8年2月3日(月)から6日(金)にかけて、第5航空群では、「青森県から運んだ新雪」及び「南極の氷」のプレゼントが行われました。

この「雪のプレゼント」は、平成7年から行われており、第5航空群のP-3C哨戒機搭乗員が、青森県八戸航空基地での寒冷地飛行訓練を終え帰投する際に、雪を持ち帰り、沖縄県の各市町村教育委員会を通じて近隣の小学校に寄贈したのが始まりです。

雪のプレゼントは、雪を見る機会がなかなか得られない沖縄の子ども達に本物の雪を「見る」「触れる」という体験を通じて、子ども達の感性を育む事の一助となればとの思いから実施され、今年で通算30回目となります。

併せて、地域社会との交流を図ることにより、海上自衛隊の活動に対する理解を得ることも目的としています。

今年は、那覇市のサニーハート保育園(参加者約40名)、南風原町の津嘉山幼稚園(参加者約190名)、宮古島の上野小学校(参加者約80名)、与那国島の与那国小学校(与那国幼稚園及び久部良小、比川小合同で実施…参加者約115名)へ、合計約1トンの雪がプレゼントされました。

この雪は、青森県の八甲田山付近で、八戸航空基地の隊員の協力を得て、那覇航空基地の隊員が採取した

ものであり、今回も、サラサラとした粉のような雪が採取できました。

雪をプレゼントした学校等の子ども達は、初めて本物の雪に触れた子どもが多く、その冷たさと珍しさに戸惑いながらも、雪をかき上げたり、雪だるまを作ったりと大喜びでした。雪遊びも、雪が解けてしまうまで遊びつくし、ひと段落したところで、子ども達から、一緒に遊んでくれた隊員に対し、「ありがとう」「楽しかった」などのお礼の言葉とたくさん笑顔をお返しされ、参加した隊員はとも癒されていました。今後も、沖縄の子ども達のために、「雪のプレゼント」を続けて欲しいと思います。

また「南極の氷」のプレゼントは、海上自衛隊が運航する「砕氷艦しらせ」が南極への物資を降ろした後、重量が軽くなった船体の喫水を下げ、氷を砕いて航行するために「南極の氷」を採取して搭載し持ち帰っているものであり、海上自衛隊の各種イベント等において来場者に展示等してありますが、第5航空群では、平成30年度から沖縄県における中学校の理科の授業において特別授業として活用していただけるようにプレゼントをしています。

今回は、石垣島の石垣中学校及び与那国島の与那国中学校(久部良中学校と合同)で理科の特別授業で活用していただきました。授業では、南極の氷の説明、南極の氷の観察等

を行いました。参加した生徒は、初めて手にする南極の氷に「興味深々」に授業を受け、氷をビーカーに入れ小さな気泡が「プチプチ」と弾けながら溶ける音を確認したり、顕微鏡での結晶観察を行う等、約2万年前の氷の感触を五感で体験していました。

各中学校からは、南極の氷の特別授業と氷のプレゼントに対して「子供たちの情操教育に役立ちました。貴重な体験ありがとうございました。」とお礼の言葉をいただきました。

〇雪のプレゼント



雪の採取風景(青森県八戸)



上野小学校(宮古島市)



津嘉山幼稚園(南風原町)



サニーハート幼稚園(那覇)



与那国中学校(与那国町)
(久部良中合同)



石垣中学校(石垣市)

〇南極の氷プレゼント



与那国小学校(与那国町)
(久部良小、比川小、与那国幼稚園合同)

第5航空群「音楽の夕べ」開催



令和8年2月21日、「那覇文化芸術劇場」では、(那覇市)において、海上自衛隊佐世保音楽隊(長崎県佐世保市所在)の演奏による第5航空群「音楽の夕べ」が開催されました。開演に先立ち、第5航空群司令(海将補 平木 拓宏)から「今日は、佐世保音楽隊が日ごろの感謝の気持ちを込めて皆様のために演奏いたしますので、文字通り、音楽を楽しんでいただき、皆様の心の潤いになれば幸いです。ごゆっくりお楽しみください。」との挨拶があり、佐世保音楽隊長(一等海尉 長岡 英幸)指揮のもと、第一部が始まりました。オープニング曲は、行進曲「K点を超えて」の華々しい曲で始まり、キッチン用具を楽器に見立てて演奏するコミカルな演出の「パニックキッチン協奏曲」のほか「ハウルの動く城より」のアニメ・メドレーで締めくくられ大いに盛り上がりしました。



トル・マーメード・メドレー」、ミセスグリーンアップル「Soraul」とバラエティーに富んだプログラムのほか、海上自衛隊音楽隊の定番曲「宇宙戦艦ヤマト」も演奏されました。すべての演奏が終了した後、大きな拍手に促されてのアンコール演奏では、長瀬剛の「クロウズ・ユア・アイズ」で感動の世界に引き込まれ、行進曲「軍艦」では、ご来場の皆様からの大きな手拍子に包まれ、最後は沖縄古謡の「唐船ドリー」で会場を沸かせ終了しました。終演後は、音楽隊員が観客の拍手を受けながら観客席を行進してロビーへ向かい整列して来場された皆様を見送りました。来場された皆様は、音楽隊の隊員に「素晴らしい演奏でした!」「感動を与えていただきありがとうございます!」「ありがとうございました!」などの言葉をかけられ、皆様笑顔で会場を後にされていました。

この演奏会は、第5航空群の主催で毎年、佐世保音楽隊の協力を得て実施されていますが、今年度は昨年度に比べ約2割増の千人を超える来場者が海上自衛隊佐世保音楽隊の演奏を楽しめました。



第5航空隊司令
1等海佐 加藤 智聡

令和7年12月16日

着任挨拶

中、最前線部隊への着任ということで、大変光栄に感じるとともに、その重責に身が引き締まる思いです。

さて、私はこれまで、赴任先における歴史を学ぶのを常としてきました。歴史は不思議なもので、知れば知るほど今この瞬間、そして将来にわたる悠久の価値を見出すことができます。私にとって歴史を知ることが、職務を全うするための力の源泉を得るようなものなのです。

他方、私たちも県民の皆様から価値のある存在だと認めてもらう必要があります。しかしながら、私たちの活躍の場が日本の遥か洋上であることを踏まえると、私たちの活躍は皆様には見えず、その価値を認めていただくことには難しい側面があります。

そうした中、本誌「でいご」は、私たちの活動状況等を広く知っていただく絶好の場となっております。また、沖縄二火会はじめ、沖縄海友会、沖縄防衛協会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会、小禄地区自衛隊親睦会の支援団体の皆様におかれましては、平素から第5航空群、また第5航空隊に対するご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様のご期待に応えるべく、私は隊員とともに、第5航空隊を精進で誇り高い、価値のある存在に作り上げてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



基地モニター及び防衛モニター行事



令和8年3月13日(金)、第5航空群において基地モニター会議及び航空機見学が実施されました。

基地モニターとは、海上自衛隊那覇航空基地周辺に在住する一般の方から選定し、自衛隊に対する意見や要望等を聴取、各地域に密着した広報活動を推進するとともに、部隊等における諸施策の改善・向上を図ることが目的とされている海上自衛隊の制度です。

また、防衛モニターは、目的は基地モニターとほぼ同じですが、陸・海・空自衛隊に対して活動していただく防衛省の制度です。

第5航空群では、基地モニターは5名、防衛モニターは1名の方が毎年度委嘱され、それぞれ任期の2年間で、第5航空群の活動や行事等に参加していただき、意見が聴取されています。(防衛モニターは、海上自衛隊だけでは

なく、沖縄地区の陸・空自衛隊の活動や行事にも参加していただき、意見が聴取されています)

基地モニター会議では、令和7年度の第5航空群の広報活動実績等について報告が行われたのち、令和6年度及び令和7年度委嘱基地モニターの方々から頂いた各種提言に基づき、今後の第5航空群の諸施策の改善・向上及び広報のあり方等について様々な視点から意見交換が行われました。

モニター会議後は、P-3C型哨戒機の機内見学、新たに配備されたP-1哨戒機の機外見学が行われ、間近での見学で両機の違いに驚かされていました。その後、基地モニターと第5航空群指揮官等との会食及び懇談が行われ、給養班員が作った海上自衛隊カレーを堪能し、基地モニター及び防衛モニター行事は終了しました。



防衛大臣那覇基地視察



令和8年1月7日、小泉防衛大臣は大臣就任後初めて沖縄本島を訪問され、翌8日には「美ら海の防人」として南西諸島の防衛に従事している海上自衛隊、那覇航空基地(第5航空群)及び航空自衛隊、那覇基地の視察を行いました。第5航空群では、P-3C哨戒機及び南西諸島における警戒監視についての説明を行い、大臣からは南西防衛の最前線において24時間態勢で任務にあたる隊員に対し、「これからも国民の命と平和な暮らし、その基盤となる我が国の領土、領海、領空を守り抜くために任務に励んでほしい」と激励のお言葉を頂きました。

また、隊員の家族とも面会され、一人一人言葉交わされたあと、隊員の子供を抱きかかえるなど、隊員、家族共に大臣と触れ合える貴重な機会を得たことに喜びの声が上がっていました。



那覇航空基地自衛官ファミリー

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。

第12回目は、那覇航空基地隊で勤務する與座兄弟の紹介です。

質問事項

- 1 職種(仕事内容)
- 2 出身地
- 3 海上自衛隊に入隊した動機
- 4 同じ基地内で勤務しての感想
- 5 お互いに一言！
(感謝や要望等)



兄 航空警備隊 車両班

那覇航空基地隊

弟 管理隊



①【兄】地上救難員／航空警備隊車両班(現配置)
私はこれまで37年間、専門職種である地上救難員として那覇航空基地の那覇航空警備隊において「基地の警備」及び車両班にて「車両運行業務」、長崎県の大村航空基地では地上救難員(航空基地の消防士)、として、また、護衛艦「あまぎ」では、艦上救難員(艦艇の消防士)の員長として勤務してきました。令和5年からの3年間は那覇航空基地隊先任伍長として勤務し、現在は、那覇航空警備隊車両班で勤務しております。

②【弟】施設員／施設班(現配置)
教育隊終了後、施設員として厚木航空基地、硫黄島航空基地、第3術科学校、八戸航空基地機動施設隊、沖縄基地隊、対馬防備隊本部、奄美基地分遣隊で勤務し、現在は那覇航空基地隊管理隊に所属しています。那覇管理隊勤務は3回目です。施設員は、各隊の生活、勤務環境、部隊運用に影響が出ないよう主に、建築土木の外注工事及び自隊工事を実施しています。

③ 沖縄県島尻郡南風原町字津嘉山

④【兄】南風原高校3年生の夏、沖縄地方連絡本部(現沖縄地方協力本部)の広報官が自宅訪問したことがきっかけで入隊を決意しました。当時は、進学を考えておらず、就職先をどうしようかと悩んでいた時期でもあり、いま思えばいい出会いだったなと感じております。

⑤【弟】私は、平成22年3月に兄の影響で佐世保教育隊第282期練習員として入隊しました。高校卒業後の入隊から早いもので約36年経過し、自衛隊生活も残り1年半となり現在の配置が最後の配置となります。

⑥【兄】兄弟揃って那覇航空基地隊で勤務するのは、2回目となり、前回は平成21年から1年ほど那覇航空基地隊管理隊で勤務しておりました。その当時も現在も、那覇航空基地隊の色々な情報を共有し合い、那覇航空

基地隊の安全や服務事故防止及び風通しの良い部隊づくりに関わってきたと自負しております。

⑦【弟】同じ基地で勤務し、兄は地上救難員、私は施設員と職場は違いますが、他の部隊の隊員から、「顔も声もそっくりだな」と、兄と間違えられて声を掛けられることもしばしばあります。職場においては先輩と後輩の上下関係を保ちつつ、公私混同しないように心がけていますが、兄の存在は私にとって頼りになる存在です。

⑧【兄から弟へ】私たちは1歳違いの兄弟で、定年も今年と来年に控えており、これまで同じ自衛官として、職種は異なっていますが、互いに励まし合いながら、ここまでこられたことを誇りに思います。ニフェーデービル、またこれからもユタサルグトゥーウニゲーサビル！

⑨【弟から兄へ】フライベートでゴルフに行くときに、必ず誘ってくれてありがたうございます。また、お互いの家でたまに二人でお酒を飲んだりして、色々な話ができて頼りになります。入隊から現在まで、自衛官としてしっかり勤務できるのは、兄の存在がとても大きいと感じております。お互い退職も近いですがユタサルグトゥーウニゲーサビル！

(沖縄の島言葉で、「ニフェーデービル」は、「ありがたうございました」、「ユタサルグトゥーウニゲーサビル」は「ユタサルグトゥーウニゲーサビル」は、「これからよろしくお願します。」の意味)

⑩【番外編】兄の與座1曹は、「でいご45号」(平成10年1月20日号)にも寄稿いただいていた。



(当時の写真)

うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

那覇航空基地隊 橋本士長(糸満市出身)



とができませんでした。

同時に受けていた予備自衛官には採用されましたが、憧れの自衛官になることができないということに涙しました。

その後、短大を卒業して保育の資格を取得しましたが、自衛官になる夢を捨てきれず、再び自衛隊を受験し、やっとあこがれの自衛官になることができました。教育隊を修業し初の配属先は護衛艦の中でも大きな艦艇で、360度灰色の世界に大興奮したのを覚えています。しかし、自身のアレルギー発症によりすぐに退職してしまい、その後は短大で取得した資格を生かそうと保育士の道に進みました。

毎日、子供たちと過ごす時間はとても楽しくあつという間でした。

そんなある日、自衛隊求人に登録をしていた地元沖縄での「産休育休代替要員」について連絡が来ました。もちろ

ろん、迷わずに受験を希望し、艦艇勤務と陸上勤務でのギャップを感じながらも、自身のアレルギーには配慮してもらいながら、1

年ほどの任期期間中を楽しく過ごすことができました。任期満了を迎え



厚生隊での勤務風景

私は、幼い頃から自衛隊に憧れ、高校卒業時に自衛隊を受験しました。が、母から高卒での入隊を反対され入隊することができませんでした。

一度退職してあきらめかけていた自衛官への道へ再度導いていただいた上官はとても感謝しています。

自衛隊に戻ってきてから、まだ日が浅いものの、この短期間で経理業務や共済業務、給養業務(ご飯作り)、そして様々な野外研修やボランティア活動、行事等ではエイサーまで踊らせていただくことができました。

自衛隊に勤務していると、自衛隊でしか体験できないことが多くあり、いろいろな面で世界が広がると実感しております。

今後もチャンスを見逃さないように積極的に行動し、自衛隊で楽しく勤務していこうと思います。

なお、余談になりますが、最初の自衛隊受験時にまだ進路が決まっていなかった親友を入隊試験に誘い一緒に受験しましたが、親友からの「合格したらから入隊するよ!」との話を聞いた時には、自分のことのように泣いて喜んだことは内緒です。(笑)

親友は関東の海上自衛隊で勤務していますので、この広報誌で「いご」を読んで、沖縄勤務を希望して、戻ってきてくれたら「うちなんちゅ隊員紹介」に寄稿してくれることを楽しみにしています。



皆様の入隊を待ってまーす!

令和8年「年頭行事」



初飛行訓練の開始報告

令和8年1月6日、第5航空群では年頭行事が行われました。年頭行事とは、年の初めに部隊等の長が訓示を行い、隊員の士気の高揚を図るとともに、今年の航空安全を祈願しつつ部隊として初めての訓練飛行を行う行事です。

第5航空群司令(海将補平木拓宏)は、年頭訓示で「これまでと変わらず基本の厳守を徹底するとともに、訓練精進にして、部隊の精強性と即応態勢の向上に一層、努めていかなければならない。」と述べ、隊員の士気を鼓舞しました。

隊員たちは、第5航空群司令に

対して初飛行

訓練の開始報

告を行い、「美

ら海の防人」

として空から

日本の海を守

るための訓練に臨みまし



訓練飛行中の機内からの景色



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・戦術航空士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長

フライトに至るまでには多くの訓練を要し、各段階の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

第5航空隊 第51飛行隊所属 長田3尉



令和7年11月26日(水)
初機長フライト

この度機長としてフライトを無事に終えることができた達成感と自信に満ち溢れております。これまでのフライトでは、隣に教官が搭乗し、熱心に、時に厳しく指導してくださっておりました。そのおかげで、初機長フライト前の最後の検定に合格することができました。

これまでの訓練では、飛行中のエンジン故障や機内火災、操縦系統の不具合など、様々な想定を与えられ、いかに航空機を安全に運航し、誰一人搭乗員の命を落とさずに着陸させられるかが求められてきました。

P-3C哨戒機は、任務の特性上、はるか洋上まで進出し、長時間にわたりフライトをするため、緊急事態が生じた際には、迅速かつ正確な判断が求められます。そのため、普段から知識の拡充に努め、不具合を想定しておく必要があります。

ここまでの話を聞くと、パイロットという職業は、非常に責任が重く、日ごろから勉強に追われ大変なのではないかと思うかもしれません。ですが、いざ自分の操縦で航空機を離陸させ、大空を飛ぶということは、言葉では言い表せないくらい感動するものです。この感動こそが「絶対にパイロットになつてやる」という気持ちの原動力となっております。そして検定当日は、すべての不具合に冷静に対処し、安全に運航することができました。

初機長フライトでは隣に後輩を乗せてフライト

トし、機内での指揮監督や、すべての責任が機長のものとなります。離陸前には緊張で手が震えました。これまでの厳しい訓練を乗り越えてきたので大丈夫だと自分に言い聞かせ、無事離陸することができました。天候もよく沖縄周辺の綺麗な景色は一生忘れることはないでしょう。

機長になることができたのは、育ててくださった教官、先輩方、私を信頼してついてきてくれたCREW、切磋琢磨しともに支えあつた同期、航空機を整備し、安全な運航に寄与してくださつた整備員の方々のおかげです。決して自分一人ではなることができなかったこの機長という重みを胸に、初心を忘れず、今後さらなる高みを目指して訓練に励んでまいります。

第5航空隊 第51飛行隊所属 松本3尉



令和8年2月16日(月)
初機長フライト

この度、伝統ある第5航空隊において、P-3C哨戒機の初機長フライトという大きな節目を無事に迎えることができました。

離陸の瞬間、機長席から見える景色は、これまで訓練で見てきたものとは全く違って見えました。それは、操縦桿の重みだけでなく、機体、そしてともに搭乗するクルー全員の命を預かるという責任の重さを改めて肌で感じたからだと思います。

ここまでのたどり着けたのは決して自分ひとりの力ではありません。私を時に厳しく、時に温かく指導してくださつた教官や先輩方、ともに切磋

琢磨しあつた同期、そして最高の状態で機体を送り出してくれる整備員の方々。多くの方の支えと信頼があつたからこそ、今私はこの場に立つことができています。空を飛ぶことは幼いころからの夢でした。しかし、自衛隊の機長としての使命は、ただ自由に空を飛ぶことではなく、この国の平和を護り、任務を完遂して必ず全員で帰還することにあります。この感動と、最初に機長席に座つた時の震えるような緊張感を一生忘れることなく、これからは私が、次世代に夢を与えられるような、そして国民の皆様心安心を届けられるような機長を目指し、一層の研鑽に励む決意です。最高のフライトをありがとうございます。

第5航空隊 第51飛行隊所属 一柳2尉



令和8年2月19日(水)
初機長フライト

候補生として第5航空隊に着隊し約5年が経ちました。これまで、様々な訓練フライトや任務フライトを経験してきましたが、本日のフライトは今まで経験してきたフライトとは異なり、操縦士の機長や指導してくださる教官のいない、自分自身が機長として航空機、搭乗員の全責任を負う初めてのフライトとなりました。機長として臨んだ本フライトでは、非常に重い機長としての責任を感じるとともに緊張感と任務を達成するという使命感を強く感じ

たことを鮮明に覚えています。初機長フライトを終えて無事任務を達成した時、今まで任務・訓練フライトで様々なことを教えて下さった飛行隊の皆様・第5航空群で勤務し安全運航を支えてくださる皆様に感謝するとともに、これからも安全に様々なフライトに臨んでいきたいと強く思いました。今後は青く美しい沖縄の海を機長として守っていきます。

第5航空隊 第51飛行隊所属

井上3尉



令和8年2月26日(木)
初機長フライト

機長になるための最終検定を終え、教官から一言「行ってこい」という言葉をかけられ、検定合格の太鼓判をいただいたことは今でもはつきりと覚えています。興奮冷めやらぬうちに初機長フライトの出発報告を終え、先輩方から激励の言葉を頂き、より一層身が引き締まる思いで一杯になりました。ただでさえ緊張する中、民航機の発着で空港内が混み合ったために離陸が遅れ、離陸後も交通の混雑が続きました。こういう時こそ機長の冷静な判断力が試されるものです。機長資格を得たからには、自分で判断して航空機を無事に運航し、着陸させなければならぬ、と強く感じたフライトとなりました。操縦以外にも機内でやるべきことは多く、自分が伸び悩んでいた時期に多くの飛行隊の方々やクルーに支えられてここまで辿りつくことができました。感謝と初心を忘れることなく今後も技量を磨いて部隊に貢献できるように邁進していきます。

「二十歳を迎えた隊員に対する激励会」について

第5航空群先任伍長 海曹長 金城 浩次

令和8年1月22日、海上

自衛隊那覇航空基地で「二十歳を迎えた隊員に対する激励会」を実施しました。

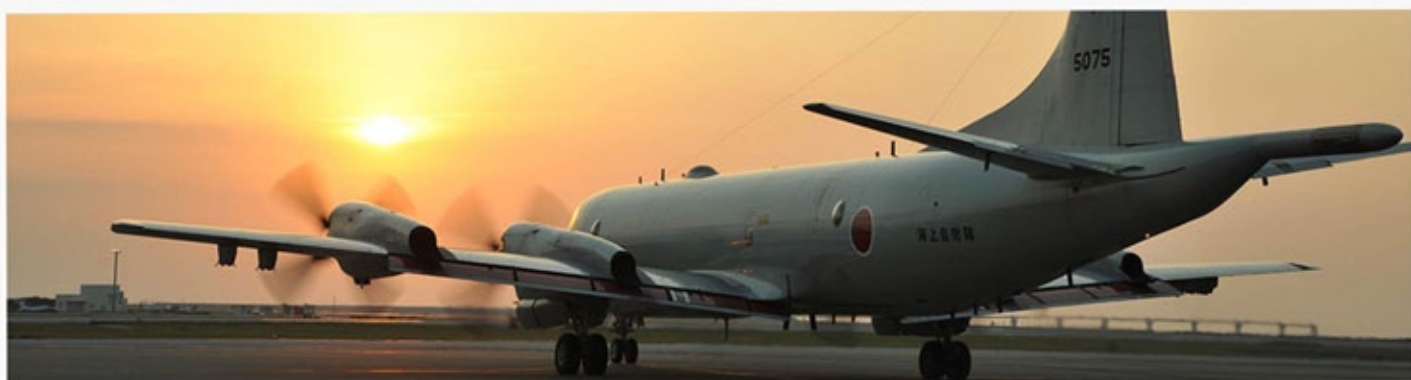
今年度は、13名の隊員が二十歳を迎え、これを機会に改めて「服務の宣誓」を行い、自衛隊の存在意義をより一層強く認識を深めました。群司令からは「これからも親はもちろん目上の方や同期、お世話になった方々へ「孝行」の気持ちを忘れず、行動で敬意を示してもらいたい。」との訓示が述べられました。

参列された、沖縄二火会をはじめ各協力団体の皆様からは、二十歳を迎える隊員に激励品を頂きました。

二十歳を迎えた隊員を代表して、第5整備補給隊 東郷 仙侃から「今日という日を迎えるにあたり、皆様の支えに心から感謝いたします。今後も一社会人として、そして自衛

官として、我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命をより一層自覚し、国民の負託にこたえることを誓います。」と謝辞がありました。

また今回は、那覇航空基地内で一緒に勤務する松田親子も参加しました。



着任挨拶



那覇航空基地司令部 令和7年12月1日
 1等海佐 関 幸一 付、那覇航空基地司令部として、第203教育航空隊第203教育飛行隊長（千葉県柏市）から着任

した関（せき）と申します。はじめに、沖縄二火会はじめ、沖縄海友会、沖縄県防衛協会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会の支援団体の皆様、また地域の皆様には平素から第5航空群、

那覇航空基地隊に対するご理解とご支援を賜りまして御礼申し上げます。私はこれまで固定翼操縦士として八戸、厚木、下総、鹿屋基地で勤務して参りましたが、ようやく念願の沖縄勤務となり、安全保障上の要衝となるこの地で勤務することに身の引き締まる思いでありますとともに、プライベート（特に沖縄そば巡り）も充実させたいと思います。

さて、私が所属する那覇航空基地隊は、海自那覇航空基地の基地業務を担当しています。第5航空群の任務達成のため、那覇航空基地隊の隊員一人一人が「基地のため、隊員のため」一致団結し同じ方向を向いて業務に邁進していく所存です。また、今後、基地業務を行う上で、種々の困難や障害も想定されますが、これらを一つずつ乗り越え、明るく活気に溢れ、国民の皆様から信頼される部隊づくりに努力して参ります。

結びとなりますが、皆様の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、那覇航空基地隊に対する今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。私の着任の挨拶とさせていただきます。

海上自衛隊

職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介いたします。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかに、艦艇職域や航空職域において、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、第5航空群司令部で電子整備員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

① 仕事内容

② 将来の目標

③ これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

電子整備員…第5航空群司令部

原屋1曹

① 「第5航空群司令部電子整備員として、通信機器や基地内の有線電話装置及び放送設備の保守整備を実施しており、主に航空機との交信をするための通信機器を定期的に点検整備しています。電子整備員の仕事は、レーダー！無線機など電波を発射する機器や有線電話装置の整備など多岐にわたり、艦船のみならず離島や航空基地など様々な部隊に電子整備員が配置されています。また機器に対する深い知識と技能を習得するための専修課程がいくつかあり、私は水上レーダーの専修課程を修業し勤務に役立てていました。」



「電話回線端子盤の調査」

② 「定年まで残り少ない時間ですが、まだ勤務したことのない部隊で新しい業務を経験してさらなる成長を目指すとともに、艦船勤務や離島勤務を経験し習得した知識技能を、今後は後輩育成のために役立てていきたいと考えています。」

③ 「私は海上自衛官だった父に憧れ、父のような船乗りになりたいと入隊しました。艦船勤務は大変な事はかりでしたが充実した毎日を送る事ができ、沢山の貴重な体験をする事ができました。入隊を考えているみなさんがこの記事を読んで、少しでも電子整備の仕事に興味を持ってくだされば幸いです。」



「初の航空部隊勤務です！」



小禄中学校職場体験を実施して

広報室 今村曹長

第5航空群では、令和8年1月30日に小禄中学校からの依頼を受け、1学年生8名に対し、職場体験学習を行いました。

この企画は、キャリア教育の一環として、職場体験を通じて職業についての意識を高め、社会規範やマナーを身に着けるとともに、職業への関心や意欲を高めることを目的として、那覇市の中学校が行っている事業であり、第5航空群では、職場体験を行うことで、

海上自衛隊に対する理解の深化を図るとともに、海上自衛隊第5航空群における各種職種の体験を通じて職場体験の目的を達成できるように支援を行いました。

最初に、海上自衛隊及び第5航空群の概要説明に始まり、海上自衛隊の職種等を説明するDVD視聴及び給養員の職種説明を行い、その後の体験喫食

では海上自衛隊カレーを大盛りで堪能していました。

午後からは、第5航空隊において航空機の説明および航空機に搭乗して行う職種の説明を受けたあと、第5整備補給隊において、高所作業体験、牽引車試乗体験、プロペラ整備作業体験など整備作業に関する学習を行いました。

今回、職場体験に参加した生徒たちは、普段体験できない作業に目を輝かせて、取り組んでいました。

また、体験後の生徒の振り返りにも「海上自衛隊で職場体験をやってよかった。」や「仕事をするって大変だなと感じた。」などのいろいろな感想をいただきました。

今後も、職場体験を通じて海上自衛隊の理解の推進を行うとともに、「働く」ことへの意識の高揚に寄与していきたいと思っています。



プロペラ整備作業



高所作業車体験



航空機搭乗員着衣体験



体験喫食(海上自衛隊カレー)

第5航空群の新しい翼、P-1 哨戒機が運用開始

令和8年3月5日、第5航空群の新しい翼P-1哨戒機が到着し、那覇航空基地での運用が開始されました。水色の機体と4つのジェットエンジンが特徴的なP-1哨戒機は、従来型のP-3C哨戒機に比べ具体的には、潜水艦に対するソノブイ探知能力の向上、艦船等に対するレーダー、光学センサーの能力向上、飛行速度がP-3Cの約1.3倍、航続距離は約1.2倍、高速大容量通信による情報伝達能力の向上、搭載可能弾種・弾数の向上による攻撃能力の向上と、大きく能力の向上が図られています。



第5航空群には、これまで運用してきたP-3C哨戒機と、先日新たに運用が開始されたP-1哨戒機とともに、今後も南西地域の平和と安定に寄与されることを期待しています。



練習艦隊が那覇新港に入港



令和8年3月23日(月)から25日(水)にかけて、那覇新港第2クルーズバースに練習艦隊(司令官 海将補 東良子)が「令和8年度近海練習航海」の寄港地として入港しました。

練習艦隊が、那覇新港に入港するのは3年連続で、関連行事が行われました。

練習艦隊における「近海練習航海」は、初級幹部自衛官に対し艦上における訓練作業を通じて、部隊勤務及び遠洋練習航海への接続に備え、必要な基礎知識や技能を習得させ、シーマンシップの体得や、艦内生活への慣熟、初級幹部自衛官としての素養を育成統率すること等を目的としています。

今回寄港した艦艇は、練習艦「かしま」、「しまかぜ」、訓練支援艦「てんりゅう」の3隻で、入港時には、沖縄二火会、沖縄海友会及び沖縄四樹の会が主催となり、入港歓迎行事が行われました。その後、行事参加者に対し、艦艇特別公開が行われ、見学された方は、普段見ることのない艦内の様子や装備品に興味津々といった様子で、乗員に対して、航海中の生活や専門職種に関する質問も多数あり、海上自衛隊について一層の理解を深めていました。

那覇新港を出港した練習艦隊は、引き続き「近海練習航海」を続けその後の「遠洋練習航海」で諸外国を周ります。遠洋練習航海では、慣海性を涵養し、幹部自衛官としての必要な資質を育成すること、諸外国との共同訓練を行い、国際感覚を涵養すること等を目的としています。



美ら島エアフェスタ2025

令和7年12月14日(日)、航空自衛隊那覇基地において「美ら島エアフェスタ2025」が開催されました。

今回は、2年振りに航空自衛隊「ブルーインパルス」の飛行展示があり、いつもよりたくさんの来隊者で賑わいました。

来隊された皆様は、航空機の展示やスタンプラリーなど、様々なイベントを楽しんでいました。海上自衛隊第5航空群も、P-3Cの地上展示、航空自衛隊航空機との飛行展示、広報ブースでの「制服試着」、「南極の氷展示」に加え、今回は新たに衛生員による「心肺蘇生法体験」、警備隊員による「ラッパ吹奏体験」、武器整備隊の「救命機材展示」等いつもより多くの企画を準備し海上自衛隊のPRを行っていました。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会
事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

※「沖縄二火会」WEB サイト
<https://okinawa-nikakai.com>

■ 第5航空群広報室
那覇市当間 252
5aw@inet.msdf.mod.go.jp
☎ 098-857-1191

※「でいご128号」は、令和7年12月から令和8年4月までの行事等を基準に掲載しています。

